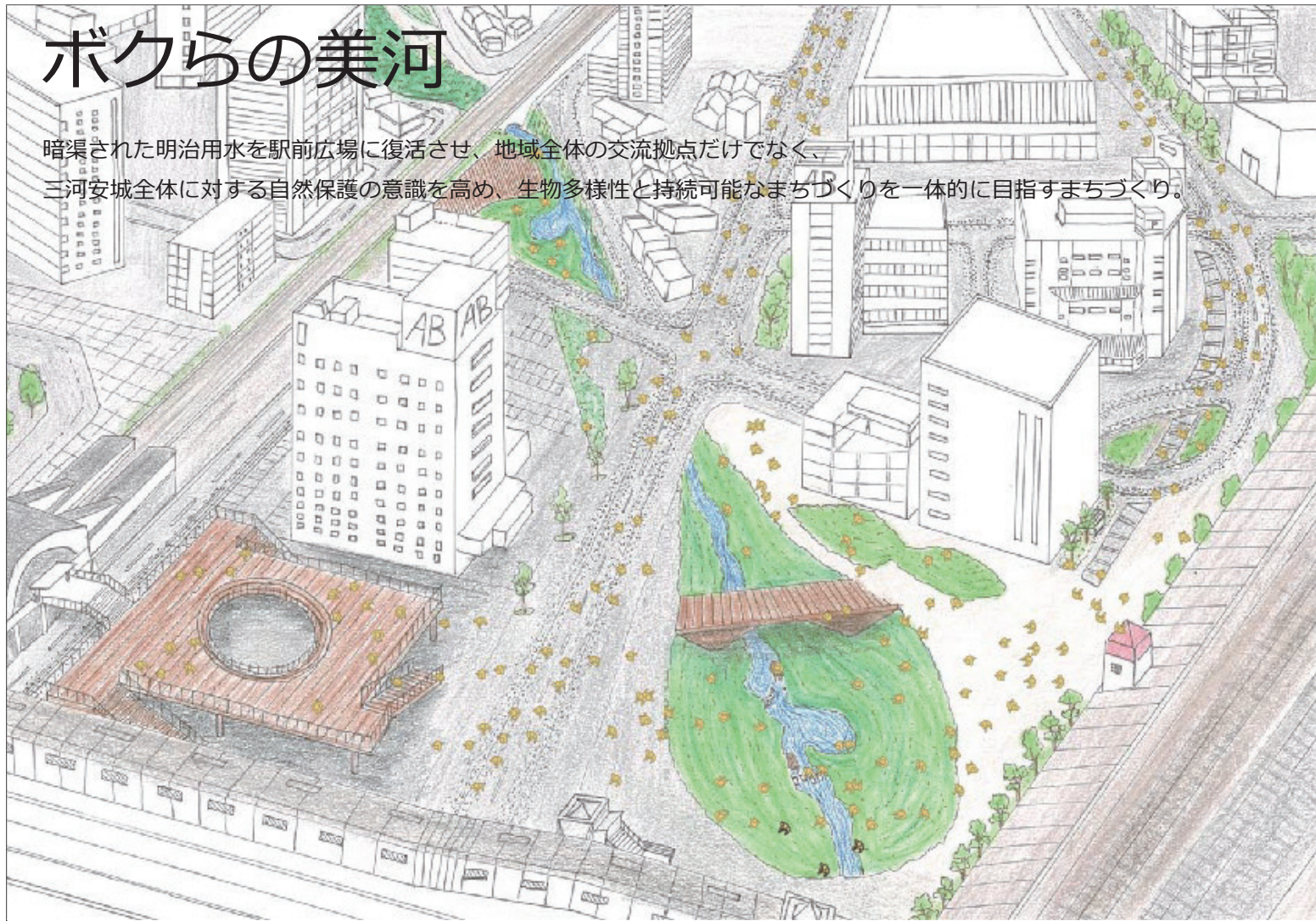


ボクらの美河

暗渠された明治用水を駅前広場に復活させ、地域全体の交流拠点だけでなく、三河安城全体に対する自然保護の意識を高め、生物多様性と持続可能なまちづくりを一体的に目指すまちづくり。



- 駅前広場・シェアドスペース
- 住宅エリア
- 商業エリア
- 住宅+商業エリア

移り変わる明治用水



過去
農業用水として整備された明治用水は、元々は全体が地上に出ていて川の流れる感じられていた。その中でどかな田園風景が三河安城一帯を占めていた。



現在
良質な水質を保つことや維持管理を行いやすくすることなどを目的にバイプライニングの整備が進められ、上部空間は広場になっていて、明治用水がなかなか感じられない様子になっている。また昔とは違い、畑や田んぼは減り、工場用水としても使われているが、人とのつながりや自然が感じられない。

月の満ち欠けは約一か月周期となっており、その周期を利用して月一回の定期的なイベントを開催することで、それを目的としたコミュニティが形成される。

川の使われ方・機能

川の水深を 15 ~ 50 cm と浅い部分を設けており、川の中に入って遊び、また生物と触れ合うことができ生物学習にも使える

橋には手すりを設けておらず、明治用水を邪魔するものではなくまた橋の淵にも座れることができる構造になっている。

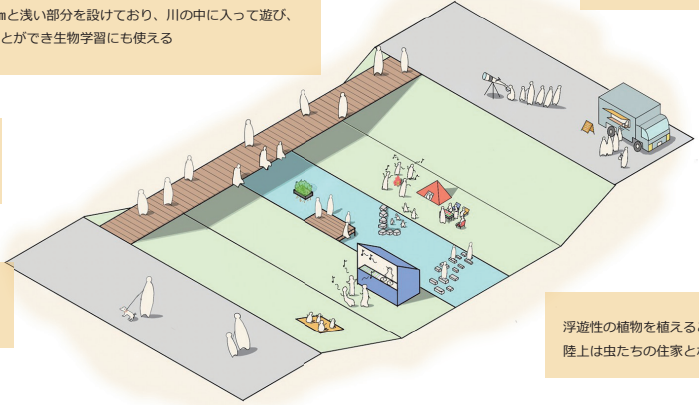
キッチンカーを日替わりや、週末に呼ぶことでいつもの川が日常では味わえない開放感あふれるレストランに早変わり。

川に飛び出す構造になっていて、川に入ることなく近所で明治用水を楽しむことができる。また淵に座ることで足だけ触れることができ、車椅子の方も安全に近くに行くことができる。

川の近くで流れている音楽は野外ということもあって盛り上がる。川の音に合わせた音楽を流せばそこは唯一無二のライブ会場に大変身。

浮遊性の植物を植えることで、水中は魚などの水中生物の住家になることが期待でき、陸上は虫たちの住家となる。また微生物の働きで水質をよくする働きが期待できる。

BBQ などのキャンプができる範囲がある為、テントを上げて小キャンプ気分を味わったり、レジャーシートをひいてピクニックを楽しむことができる。



雨庭

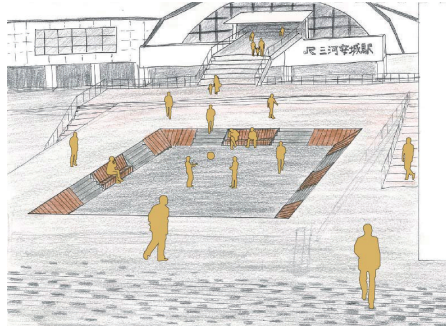


上に降った雨水を下水道に直接放流することなく一時的に貯留し、ゆっくりと地中に浸透させる構造を持った植栽空間。住宅地の至る所に雨庭を作ることで景観的にも良くなり人々のコミュニティの場所になり、近年各地で多発している、線状降水帯やゲリラ豪雨に対する対策にもなる。

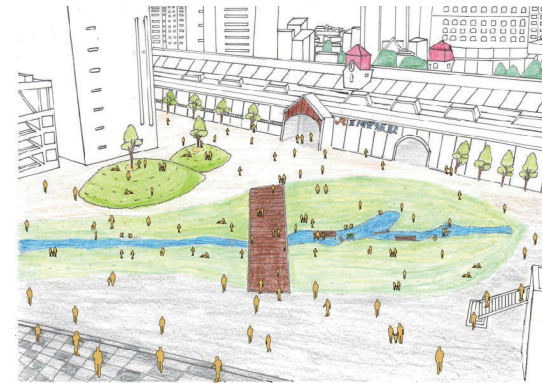
ランドアバウト：
現状の新幹線の駅をすぐでロータリーがあったが、それを手前のT字路まで下げ信号機を使わずに右折や左折またUターンが可能なランドアバウトにすることで、より歩車共存が可能な道が出来上がる。歩行者と運転手はアイコンタクトで道を譲り合うため事故が起きにくい仕組みになっている。



シェアドスペース：
車道と歩道をフルフラットにすることで車道との境界線をなくす。またドットの舗装パターンを歩道から車道に伸ばすことで車道が視覚的に狭くなるという錯覚を利用して車両の減速を促すことが可能



JR 駅前広場：
誰もが遊べる広場になっていて、広場の側面とペDESTリアンデッキからは見る見られるの関係になっている、また下の広場での 1 on 1 や 3 on 3 のができる。



新幹線の駅前広場：
新幹線の駅を出た瞬間のワクワク感を与えるため小山を作り上げることで川を俯瞰的に見ることができる視点場となり、建物の壁面にシアターなどのイベントを開催することができ、そこではシーホース三河のライブビューイングが閲覧できようになる。その時に高低差がある小山を座るところにすることで、多くの人が見れるところにもなる。